

広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会

艶やかに楓を映す漆のロックグラス

宮原 楓翠 栃木／漆芸家



スーパーバイザー
小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科に通う。伝説の深夜番組「カノッサの屈辱」でその名を世間に広め、「進め!電波少年」や「料理の鉄人」など、数多くのヒット番組の企画・構成に携わる。「くまモン」の生みの親でもある。



1月17日、プレゼンテーションにて



完成プロダクトを披露

「伝統」を守りながら「新しい」感覚やテクノロジーを吹き込む。「地域」の特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。LEXUSが掲げる「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。栃木県選出の匠、宮原楓翠さんのモノづくりへかける思いと完成した作品を紹介する。



商談スペースの様子

2年目となった今年は、全国47都道府県から計51名の若き匠が選出。昨年夏、レクサスギャラリー高輪で行われたキックオフ・セッションを皮切りに、サポートメンバーが実際に工房を訪ね、途中経過のプロダクトをうけて行うエリア・コンサルティングを経て、匠は自身のアイデアを磨き、プロダクトの試作に取り組んだ。

本プロジェクトは2016年、放送作家として「料理の鉄人」などの多くのヒット番組を手がけ、またくまモンの生みの親でもある小山薫堂氏をプロジェクトのスーパーバイザーに迎え、隈研吾氏(建築家/東京大学教授)、生駒芳子氏(ファッション・ジャーナリスト/アート・プロデューサー)、下川一哉氏(意匠研究所)らをサポートメンバーに発足。

「匠」のモノづくりを応援

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」(主催:LEXUS)は、日本各地で地域の独自性や伝統技術を生かし、新しいモノづくりに挑む「匠」を応援する。



プレゼンテーションの様子

1月17日に都内で行われた商談会では、百貨店・セレクトショップバイヤー・メディア・デザイン関係者などに向けて半年間をかけて製作した自身のプロダクトをプレゼンテーション。世界へ羽ばたく足がかり、ビジネス拡大のきっかけとなる大きなチャンスを手にした。また、商談会の終盤ではビームスジャパンとのコラボレーション企画「JIEP with NEW TAKUMI」(新しい匠、新しい暮らし)が発表されるなど、プロジェクトも進化している。

「用の美」を追求

宇都宮市の南西部、幹線道路から路地を入った静かな住宅地に宮原さんのアトリエがある。祖父は第一回伝統工芸士に選ばれた漆工芸家の宮原蘇山。父、隆岳は蒔絵や螺鈿技法を得意とする漆芸家として知られている。

「伝統を踏まえながら、代々違った技法で漆の可能性を追求してきました。アトリエには、祖父が作りかけて完成させられなかった作品がゴロゴロしています」と笑う三代目の宮原さん。益子の陶芸家・濱田庄司が民藝運動により提唱した「用の美」にこだわりながら、「父とは違う技法で漆器を作りたい」と、木材を用いずに造形する乾漆技法を追求し続けている。



乾漆の素材、麻布と麻縄

柔らかい栃木県産の素材が放つ輝き

宮原さんが最もこだわったのは、栃木県産の素材を使うことだった。「漆を塗ってしまえば土台の素材は見えません。見えないからこそ本物を使いたい」と、鹿沼産の麻縄、烏山和紙、生漆も馬頭産(栃木県那珂川町)を調達。市内の老舗バーのパートナーに意見を求めながら、試作の日々が続いた。

転機となったのは、10月に行われたエリア・コンサルティング。サポートメンバーの川又俊明氏が突然、「宮原さんに聞いた。「楓翠って本名?」。宮原さんの名前「楓翠」は、父親が「いつまでも緑の楓のように瑞々しい感性を忘れずにい



完成プロダクト「乾漆ロックグラス『楓』」

量生産ができないため、市販されている漆器にはほとんど使われていない。それでも宮原さんは言う。「木材を使った作品は、木地師の技術に仕上がりが左右されます。しかし乾漆なら、すべての工程を自分の手で行うことができる。自由に思った通りに造形することができず」。

乾漆技法を用いた器は軽くて丈夫、手触りの柔らかさも大きな特長だ。LEXUS NEW TAKUMI PROJECTへの参加が決まったとき、宮原さんはその特長を生かした大皿の製作を考えていた。しかし、キックオフ・セッションで小山氏が口にしたのは「日光の老舗ホテルのバーで使えるようなロックグラスってどう?」という言葉だった。決して透明にはなら

ない柔らかい質感の乾漆と、透明で氷があたると硬質な音を発するガラスとは真逆の素材。「ロックグラスという発想は私の中にはありませんでした。だからこそ面白い、やってみたいと思いました。奇しくも宮原さんが生まれ育った宇都宮市はバー文化が育つ「カクテルのまち」。その偶然の地域性も背中を押した。

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」だからこそ新たな発見があり、少しだけ冷たさを伝える柔らかい手触りも、多くのバイヤーに好評を得た。

これまででない作品が生まれました」と手応えを感じた宮原さん。「この挑戦を今後の作品に生かしたい」と熱い想いを語ってくれた。



宮原さんの作業風景



エリア・コンサルティング



宮原 楓翠
栃木／漆芸家

1973年栃木県宇都宮市生まれ。1997年に石川県立輪島漆芸技術研修所を卒業。1995年第16回宇都宮市民芸術祭 市民芸術祭賞、1997年栃木県芸術祭美術展準芸術祭賞等受賞。東武宇都宮百貨店、日光・ぎやらりー音響機、鐵竹堂瀧澤記念館、他展覧会を多数開催。

LEXUS
NEW
TAKUMI
PROJECT